

かわら版 十



2022(令和4)年まで市内で創作活動を続けていた、人形作家の「緋世(ひよ)」こと田中ミサヨさんの「創作人形展」が3月16日から31日まで、恵庭市郷土資料館(南島松157)で開催。昭和の暮らしと子どもたちを題材にしたちりめん人形

緋世創作人形展

昭和の子どもたちをちりめん人形で表現

展示会場では、いたずらが見つかって母親から逃げる3兄弟や夏の日に川に飛び込んで泳ぐ様子、こま回しや縄とびで遊ぶ姿、子守やお母さんに肩

など約40点が展示されました。田中さんは空知郡奈井江町出身。1973年に和紙工芸を始め、1987年に市内恵み野の自宅にアトリエを開きました。以来30年以上にわたり、ちりめん以外にも紙粘土や色紙、洋風などさまざまな人形制作を続け道内各地で講座や展示会を開いてきました。



たたきをする子どもなど、昭和の遊びや日常をちりめん人形で再現していました。来館した男性は「自分の生まれる前の時代の日常ですが、雰囲気も相まってどこか懐かしさや共感できる部分がありました。実際に見たことがないはずの昔の生活を見て、懐かしく感じる自分が日本人であると再認識できました」と話していました。

(編集部 大谷)

第27回

アイル通信

～多様性を認め、尊重し支え合える社会へ～!



アイルの活動に携わるようになって、気がついたら、7年の月日が流れていました。

多様な人(障害・病気・国籍・文化・宗教・年齢・性別など)がいるのに、マイノリティ(少数派)は排除され、多数の人にだけに合わせてつくられてきた社会…。そのような社会の流れが、当たり前と思って生きてきた私にとって、アイルは、あらゆる障がいや障壁(バリア)も無く、「心のバリアフリー」が広がる、何となくほっこりできる空間という印象で、衝撃を受けたことを覚えています。



よく耳にする「バリアフリー」より、一歩進んだ「インクルーシブ(包括)な社会」。それは、多様性を認め、すべての人が尊重し合い、支え合える社会です。

アイルは、高齢者や障害者、健常者が共生する「インクルーシブ」な「コミュニティ(共同体)」と言えるかもしれません。

メンタルヘルス(心の健康)として、暮らしにお花を取り入れる講座を7年。2年前からは、地元恵庭市の花農家さん達の育てた切り花を通して「エンパシー(共感力)」と「生きる力」を育む、発達支援(療育)要素のある『花育』を取り入れています。大人だけではなく、未来を担う子どもたちの「インクルーシブ教育」の一部となることを願い、アイルの一員として活動していきたいと思っています。

えにわ市民プラザ・アイル理事 山田 きみ子

プロフィール NPO法人えにわ市民プラザアイル

アイル(通称)は、2007(平成19)年2月に、恵庭市内で市民活動をしている有志が集まって設立した団体です。現在、①市民の行き場所・居場所・交流の場づくり事業、②介護保険対象外の市民の困りごと解決事業、③子どもたちの生活習慣・学習支援事業を実施しています。このコラムではアイルの事業を通して感じた事、考えた事を皆様にお伝えしたいと思います。

生活支援コーディネーター@レポートからお届けします!

千歳のまちのたからもの 第67回 東区編

『絵手紙教室』～東郊町内会～

東郊町内会では、毎月第4木曜日の午前10時から町内会館で絵手紙教室を行っています。

6年前に始めた当初は、絵手紙の先生に来ていただき、絵手紙の基本を教えてくださいましたが、今は各自で野菜や果物、花など思い思いの題材を見本に絵を描いています。絵手紙に必要な筆、ぶんちん、ハガキや絵の具も各自が用意しています。

絵手紙は、下描きしてから描くということはしません。いきなり本番ですが、題材は大きめに、そしてできるだけゆっくりと描くと良いそうです。また、コツとして色をつけるときは完全に塗りつぶすのではなく白いところを少し残す、字は墨をつけすぎないで少しかすめるくらいで書くと作品に味わいがでるとのことです。

初めはうまくいかなくても、何度も描いていくうちにだんだん自分らしさの出る作品になります。絵手紙は下手でいいし、下手がいいのです。心を込めて一生懸命描いたものは、相手の心に伝わるでしょう。

完成した作品は町内会館のほか、千歳市社会福祉協議会や市内コミュニティセンター、福祉センターなどに展示されています。

毎回5名前後の方が参加していますが、東郊町内会の方であればどなたでも参加できます。絵を描くのが苦手な方、初めての方でも楽しめると思いますので、一度町内会館を訪れてはいかがでしょうか。



毎月第4木曜日 10:00～ 東郊町内会館 (千歳市東郊1丁目5-9)

〈掲載内容についてのお問い合わせ〉 社会福祉法人千歳市社会福祉協議会生活支援コーディネーターまで。 TEL(0123)27-2525 FAX(0123)27-2528



第59回

ちよいづれかあさん



かわかみ まお 川上 真生

恵庭市在住。1男1女、2児のママ。2010年に小説『青い世界』で日本文学館出版大賞特別賞受賞。2011年からマンガ執筆を始め、2018年度「第3回北のまんが大賞」で特別賞に入選。現在は、電子書籍の本屋さん Dopub(ドゥパブ)で「UNI(ユニ)一輪車」を連載中。
<http://dopub.jp/>

こんにちは、川上真央です。暖かい日に家族で出かけられたら、それだけで幸福感が増す気がします

ゴールデン・ウィーク

